

沖縄県立埋蔵文化財センターにおける図書記号設定

The Archive Classification Method
in Okinawa Prefectural Archaeological Center of Buried Cultural Property

仲間 留美
NAKAMA Rumi

ABSTRACT: The 'book mark' is a part of the 'request number' that indicates the location of book in a library. Each library determines their own classification method and establishes the request number consisting of the 'classification mark' and 'book mark'. The majority of the library in the Okinawa Prefectural Center of Buried Cultural Property to the category of 'archaeology' and 80% of them are the site reports. As for the 'classification mark' we have introduced the popular NDC (Nippon Decimal Classification) method; however, we have established an independent method for the 'book mark' in order to specialize the site reports. Our 'book mark' includes the regional classification, constituted of alphabets and Arabic numerals, since the regional aspects are quite important in archaeology. The regional classification consists of three sub-stages: (1) prefecture, (2) city and town for Okinawa and region for Kagoshima and (3) remote island.

1. はじめに

「図書記号¹⁾」とは、図書館内において個々の図書資料を識別し、排架されている位置を示すために付けられた「請求記号²⁾」を構成する記号の一部である。主題別に分類排架されている場合、請求記号は「分類記号³⁾」と「図書記号」によって構成される。沖縄県立埋蔵文化財センター（以下、センター）における図書資料は、考古学に関する図書を中心とした蔵書構成であり、その排架状況は大まかな分類排架に留まっていた。利用や管理の便からも個々の図書に「請求記号」を付し、そのための「図書分類法」の設定が開所以来の課題となっていた。

分類方法の設定は、現在、沖縄県立図書館を中心に進められている図書館及び関連施設間における情報ネットワーク化⁴⁾を考えると、多くの図書館に広く利用されているNDC（日本十進分類法⁵⁾）の採用が妥当である。しかし、公共図書館の蔵書構成と大きく異なるセンターでは、全体の約8割が発掘調査報告書であり、それらのすべてが同一の分類記号（210.0254）という状況となる。そこで、今後の情報ネットワークへの参加を見越しつつ、同一の分類記号を持つ「発掘調査報告書」を利用の便を考えて排架するためには、「分類記号」と共に「請求記号」を構成する「図書記号」の設定が効果的である。そこでセンターでは、地域別に記号化した独自の地域記号を「図書記号」とする「図書分類表」（表1～3）を作成した。ここでは、類似施設での図書、特に「発掘調査報告書」分類における参考資料としてその内容を紹介する。

2. 図書記号の設定

考古学では、文化的側面からの「地域」というものが重要視される。その点からも、利用者の便をはかるため、図書記号は「地域別」で分類を行なった。その構成は、アルファベットと数字の組み合わせによる記号⁶⁾の設定となっている。第1次区分で都道府県別、沖縄県・鹿児島県においては検索及び管理の面を考慮し、さらに第2次区分から第3次区分までの細区分設定を行なった。

表1 図書分類表 (都道府県別)

第一次区分(都道府県名)	
北海道	
	Ho
東北地方	青森県
	Ao
	岩手県
	Iw
	宮城県
	Miy
関東地方	秋田県
	Ak
	山形県
	Yama
	福島県
	Huku
関東地方	茨城県
	Ib
	栃木県
	Toc
	群馬県
	Gu
中部地方	埼玉県
	Sai
	千葉県
	Ch
	東京都
	Tok
北陸地方	神奈川県
	Kan
	新潟県
	Ni
	富山県
	Toy
中部地方	石川県
	Is
	福井県
	Huk
中部地方	山梨県
	Yam
	長野県
	Nag
	岐阜県
	Gi
近畿地方	静岡県
	Shiz
	愛知県
	Ai
	三重県
	Mie
近畿地方	滋賀県
	Shi
	京都府
	Ky
	大阪府
	Ohs
中国地方	兵庫県
	Hy
	奈良県
	Nar
	和歌山県
	Wa
中国地方	鳥取県
	Tot
	島根県
	Sh
	岡山県
	Oka
四国地方	広島県
	Hi
	山口県
	Ya
四国地方	徳島県
	To
	香川県
	Kag
九州地方	愛媛県
	Eh
	高知県
九州地方	Ko
	福岡県
	Hu
	佐賀県
	Sa
	長崎県
Na	
九州地方	熊本県
	Ku
	大分県
	Oh
九州地方	宮崎県
	Mi
	鹿児島県
Ka	
沖縄県	
Ok	

表2 図書分類表 (沖縄県内)

第1次区分(県名)	第2次区分(地域)		第3次区分(島名)	
沖縄県 Ok	北部	国頭村	Ok01	
		大宜味村	Ok02	
		東村	Ok03	
		今帰仁村	Ok04	
		本部町	Ok05	
		名護市	Ok06	
		恩納村	Ok07	
		宜野座村	Ok08	
		金武町	Ok09	
		伊江村	Ok10	
		伊平屋村	Ok11	
		伊是名村	Ok12	
	中部	石川市	Ok13	
		与那城町	Ok14	
		勝連町	Ok15	
		具志川市	Ok16	
		沖縄市	Ok17	
		読谷村	Ok18	
		嘉手納町	Ok19	
		北谷町	Ok20	
		北中城村	Ok21	
		中城村	Ok22	
		宜野湾市	Ok23	
		西原町	Ok24	
		浦添市	Ok25	
		那覇市	Ok26	
	南部	豊見城市	Ok27	
		糸満市	Ok28	
		東風平町	Ok29	
		具志頭村	Ok30	
		玉城村	Ok31	
		知念村	Ok32	
		佐敷町	Ok33	
		与那原町	Ok34	
		大里村	Ok35	
		南風原町	Ok36	
	南部離島	久米島町	Ok37	
		渡嘉敷村	Ok38	
		座間味村	Ok39	
		粟国村	Ok40	
		渡名喜村	Ok41	
		南大東村	Ok42	
	宮古	北大東村	Ok43	
		平良市	Ok44	
		城辺町	Ok45	
		下地町	Ok46	
		上野村	Ok47	
		伊良部町	Ok48	
		多良間村	Ok49	
	八重山	石垣市	Ok50	
竹富町		Ok51	竹富島	Ok511
			西表島	Ok512
	小浜島		Ok513	
	波照間島		Ok514	
	鳩間島		Ok515	
	黒島		Ok516	
新城島	Ok517			
与那国町	Ok52			

●都道府県別の設定（表1）

都道府県別の分類は、第1次区分のみで表1に示した。アルファベットの大文字と小文字の2文字構成を原則とし、センターでの利用頻度及び整理作業の面から、沖縄県から北上する順で設定を行なった。文字の設定方法は、都道府県名のアルファベット綴りから引用し、文字記号が重複する場合は、2文字以上の設定となっている。

●沖縄県内の細区分設定（表2）

分類表は表2に示した。先に述べたように、沖縄県内は第3次区分まで設定し地域内での細区分化を行なった。

ア) 第1次区分（都道府県別）

沖縄県は都道府県別の設定により「Ok」となる。沖縄県全体に関する事柄を扱ったもので、第2次区分以下に区分できないものを含むものとする。

イ) 第2次区分（市町村別）

県内を「北部・中部…」のような地域区分の区分をすると、資料数からみても粗い分類となるため、「市町村」別に細設定をしている。沖縄県の記号「Ok」に、北部から順に「01・02…」の数字を組み合わせた記号設定である。

例：Ok51…竹富町に関する事柄を扱ったもの。

ウ) 第3次区分（島別）

市町村でさらに島別に扱うものを設定した。現段階では竹富町のみを設定となっている。

例：Ok511…竹富町の中でも特に、竹富島に関する事柄を扱ったもの。

●鹿児島県内の細区分設定（表3）

分類表は表3に示した。文化的に沖縄との関わりが深い「薩南諸島」を含む鹿児島県においても、第3次区分までの地域別による細区分化を行なった。

ア) 第1次区分（都道府県別）

鹿児島県は先述した都道府県別の設定により「Ka」となる。鹿児島県全体に関する事柄を扱ったもので、第2次区分以下に区分できないものすべてを含むものとする。

イ) 第2次区分（地域別）

表3 図書分類表（鹿児島県内）

第1次区分(県名)	第2次区分(地域)		第3次区分(島名)		
鹿児島県 Ka	薩摩半島南部	Ka01			
		Ka02			
		Ka03			
		Ka04			
	薩南諸島	大隈諸島	Ka05	種子島	Ka051
				屋久島	Ka052
		トカラ列島	Ka06		
		奄美諸島	Ka07	喜界島	Ka071
	奄美大島			Ka072	
	加計呂麻島			Ka073	
徳之島	Ka074				
			沖永良部島	Ka075	
			与論島	Ka076	

表4 地域区分一覧（鹿児島県内）

地域区分	市町村名
薩摩半島南部	串木野市、市来町、東市来町、郡山町、日吉町、伊集院町、吹上町、松元町、金峰町、吉田町、鹿児島市、桜島町、笠沙町、大浦町、加世田市、川辺町、坊津町、枕崎市、知覧町、喜入町、穎娃町、指宿市、開聞町、山川町
大隈半島	財部町、輝北町、大隅町、末吉町、大崎町、有明町、松山町、志布志町、垂水市、鹿屋市、根占町、大根占町、吾平町、串良町、東串良町、佐多町、田代町、高山町、内之浦町
始良郡	吉松町、栗野町、横川町、蒲生町、始良町、溝辺町、加治木町、隼人町、牧園町、霧島町、国分市、福山町
北部薩摩	長島町、東町、阿久根市、野田町、高尾野町、出水市、大口市、菱刈町、川内市、東郷町、宮之城町、鶴田町、樋脇町、入来町、祁答院町、薩摩町

※ 里村、上甌村、鹿島村、下甌村、三島村、十島村は、薩南諸島に含む。

鹿児島県の場合の第2次区分では、センターにおける蔵書状況等から、沖縄県の設定とは異なる「地域別」の区分設定を行なった。鹿児島県の記号「Ka」に鹿児島本土部の南部から順に「01・02…」の数字を組み合わせたものである。なお、地域区分については、河口貞徳氏による区分（河口貞徳1998）を参照した。各市町村の地域区分は表4に示している。

例：Ka07…奄美諸島に関する事柄を扱ったもの。及び、第3次区分に設定されていない島を含む。

ウ) 第3次区分（島別）

薩南諸島に関しては、文化的に沖縄との関わりが深いことから島別による細分化を行なった。現段階では、大隅諸島及び奄美諸島のみを設定に留めている。

例：Ka071…奄美諸島の中でも特に、喜界島に関する事柄を扱ったもの。

3. おわりに

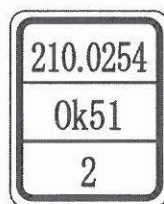
以上、センターにおける「図書記号」の設定方法について述べてきた。当初、これらは「発掘調査報告書」を個別化するために設定したものである。しかし、「地域区分」で設定したことにより、年報や紀要、図録といった他の分類での図書の個別化にも応用することが可能となった。現在は、これらを元に請求記号を示した背ラベルを付し、請求番号順に排架する作業を進めている。

これまでに述べてきたものは、沖縄県立埋蔵文化財センターにおける一つの例であり、類似施設での図書分類における参考となれば幸いである。

（なかま るみ：調査課 嘱託員）

註

1) 同一の分類記号をもつ図書を書架への排列や検索のためにさらに個別化するための記号。受入順に番号を付す場合や、著者名のアルファベット順を用いて数字と組み合わせる等いくつかの方法がある。各図書館でその方法は設定され、分類記号と組み合わせることで個々の請求記号となる。



— 分類記号
— 図書記号
センターでは地域記号。
— 巻冊記号
巻号等を記入。
図書記号に含まれる。

請求記号

図1 図書ラベルの例

（竹富町の遺跡、発掘調査報告書第2巻の場合）

- 2) 図書館内において、図書を識別しその排架されている場所を示す記号。図書の背に貼られる図書ラベル（図1）は、請求記号を表示したもの。
- 3) 分類項目を簡潔に示した記号で、資料の主題を表し、その分類の体系や順序を示している。
- 4) 沖縄県では、県立図書館が中心となって「沖縄県図書館総合目録システム」の構築が進められている。平成13年度に2館分でスタートし平成15年度1月現在では、6館分のデータで稼動している。平成15年度には、図書館以外に県内の資料館・学校・大学図書館の機関の参加も可能となる。
- 5) 日本における標準的な図書分類法で、1995年には新訂9版が刊行されている。
- 6) アルファ・ヌメリック記号ともいう。

参考・引用文献

- 河口貞徳 1998 「序章 南九州の風土」『鹿児島』日本の古代遺跡38、保育社
- 千賀正之 1997 『図書分類の実務とその基礎 NDC新訂9版対応改訂版—データ作成と主題検索へのアプローチ』、
社団法人 日本図書館協会
- 豊田恭子ほか著 2000 『専門図書館のマネジメント』図書館員選書22、社団法人 日本図書館協会
- 日本図書館協会用語委員会編 1996 『図書館用語集 改訂版』、社団法人 日本図書館協会
- 根本彰ほか著、三多摩郷土資料研究会編 1999 『地域資料入門』図書館員選書14、社団法人 日本図書館協会